平成１８年度第１回
かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要				
調査設計等	◆調査対象	川崎市在住の満 20 歳以上の男女個人	◆調査方法	郵送法
	◆標本数	3,000 標本	◆調査期間	平成 18 年８月８日(火)～８月 25 日(金)
	◆標本抽出	住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出	◆有効回収数	1,388 標本
			◆有効回収率	46.3%
調査項目	1 健康に関する意識（実態）について		2 地域福祉について	
	3 ごみに関する意識について		4 道路について	

※ 基数となるべき実数（ｎ）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第２位を四捨五入しているためあるいは複数回答のため、数値の合計が 100 にならない場合がある。

調査回答者の属性

１　性別

	基　数	構成比
1　男性	612	44.1%
2　女性	736	53.0
(無回答)	40	2.9
合　　計	1,388	100.0

２　年齢・性／年齢

	全体		男性		女性		無回答	
	基　数	構成比	基　数	構成比	基　数	構成比	基　数	構成比
1　20 歳代	160	11.5%	61	10.0%	98	13.3%	1	2.5%
2　30 歳代	288	20.7	129	21.1	157	21.3	2	5.0
3　40 歳代	214	15.4	109	17.8	104	14.1	1	2.5
4　50 歳代	272	19.6	118	19.3	153	20.8	1	2.5
5　60 歳代	247	17.8	112	18.3	134	18.2	1	2.5
6　70 歳以上	171	12.3	82	13.4	86	11.7	3	7.5
(無回答)	36	2.6	1	0.2	4	0.5	31	77.5
合　　計	1,388	100.0	612	100.0	736	100.0	40	100.0

1　健康に関する意識（実態）について

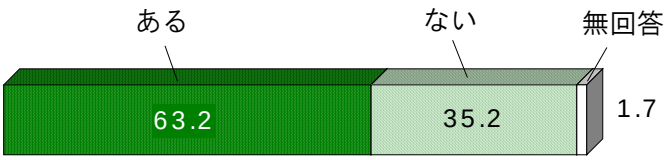
《健診（健康診断や健康診査）について》

1　検診や人間ドックの受診

過去１年間の健診や人間ドックの受診状況を聞いたところ、「ある」（63.2%）が６割を超えている。一方、「ない」は 35.2%となっている。

図１

n＝（1,388）

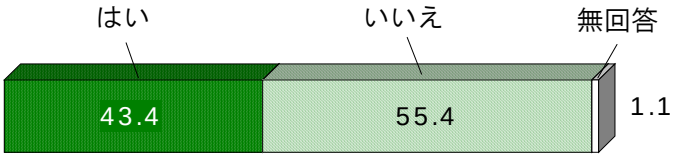


１－（１）　健診や人間ドックでの指摘の有無

健診や人間ドックを受けたことのある人に、結果での指摘の有無を聞いたところ、「はい」（43.4%）は４割を超えている。一方、「いいえ」は 55.4%である。

図２

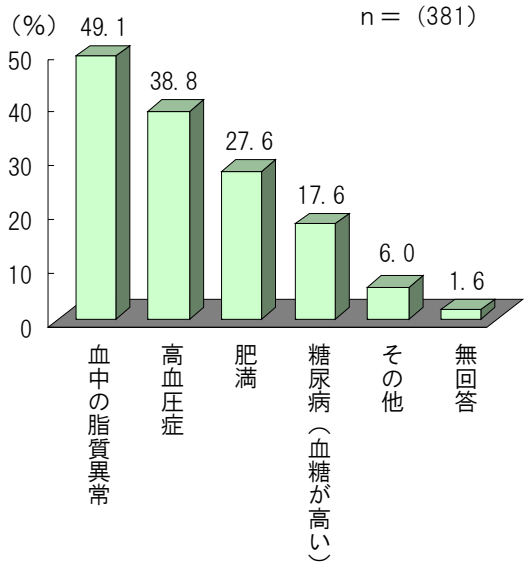
n＝（877）



１－（１）－①　健診や人間ドックでの指摘の内容

指摘された人に、その内容を聞いたところ、「血中の脂質異常」（49.1%）が半数に近く、最も多かった。次いで、「高血圧症」（38.8%）が４割である。以下、「肥満」（27.6%）、「糖尿病（血糖が高い）」（17.6%）となっている。

図３　（複数回答）

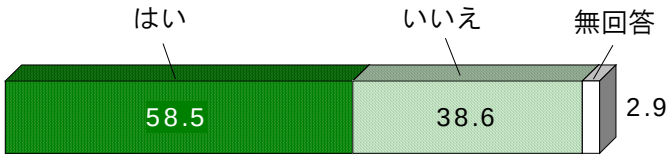


１－（１）－②　保健指導の有無

指摘された人に、保健指導（食事や生活習慣の改善の指導）を受けたか聞いたところ、「はい」（58.5%）が６割に近い。一方、「いいえ」は 38.6%となっている。

図４

n＝（381）

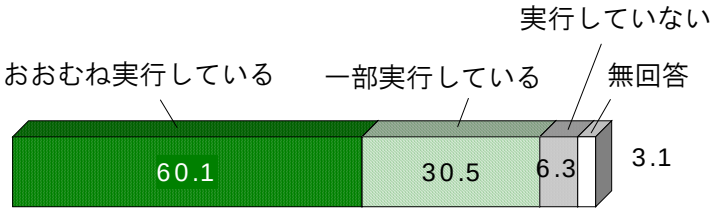


１－（１）－②－１　保健指導内容の実施状況

保健指導を受けた人に、実践状況を聞いたところ、「おおむね実行している」（60.1%）が６割で最も多く、「一部実行している」（30.5%）も３割となっている。

図５

n＝（223）

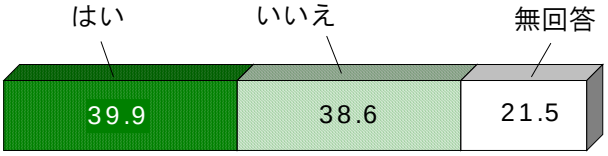


１－（１）－③　医療機関の受診勧告の有無

指摘された人に、最終的に医療機関への受診を勧められたか聞いたところ、「はい」（39.9%）と「いいえ」（38.6%）が約４割でほぼ同程度となっている。

図６

n＝（381）

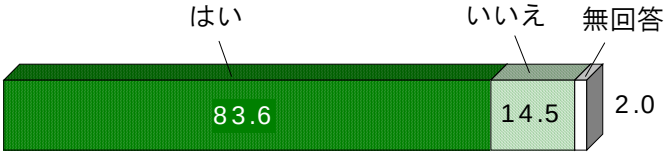


１－（１）－③－１　医療機関の受診状況

医療機関への受診を勧められた人に、受診状況を聞いたところ、「はい」（83.6%）が８割を超えており、ほとんどの人が勧められたとおりに受診している。

図７

n＝（152）

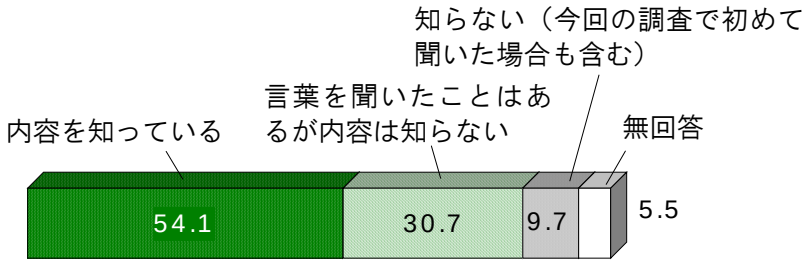


2　「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」の認知状況

「内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）」の内容を知っているか聞いたところ、「内容を知っている」（54.1%）が半数を超えて最も多かった。また、「言葉を聞いたことはあるが内容は知らない」（30.7%）が３割となっており、「知らない」（9.7%）は約１割にとどまっている。

図8

n＝（1,388）

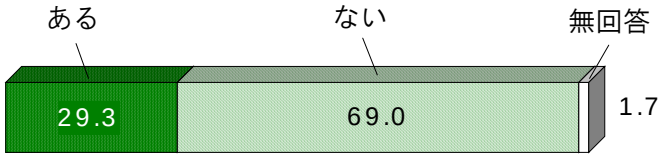


3　がん検診の受診状況

この１～２年間でのがん検診の受診状況を聞いたところ、「ある」（29.3%）が３割近くとなっている。一方、「ない」（69.0%）は７割近くとなっている。

図9

n＝（1,388）

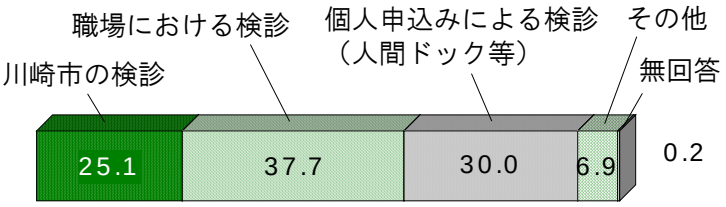


3－（1）　受診の機会

がん検診を受診した人に、受診のきっかけを聞いたところ、「職場における検診」（37.7%）が最も多い。次いで、「個人申込みによる検診（人間ドック等）」（30.0%）が３割、「川崎市の検診」（25.1%）が２割台半ばとなっている。

図 10

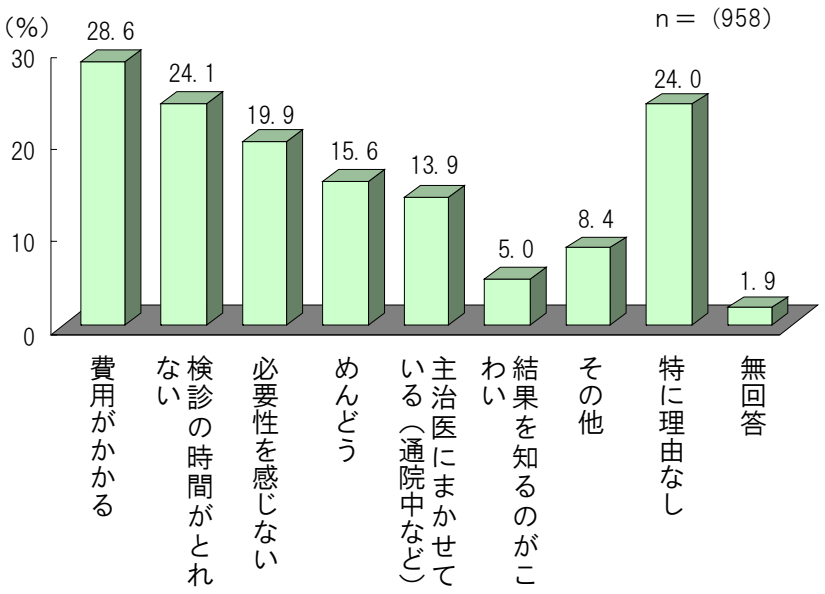
n＝（406）



3－（2） 受診しない理由

がん検診を受診していない人に、受診しない理由を聞いたところ、「費用がかかる」（28.6%）が３割弱と最も多い。次いで、「検診の時間がとれない」（24.1%）が２割台半ば、「必要性を感じない」（19.9%）が２割となっている。また、「特に理由なし」（24.0%）が２割台半ばである。

図 11 （複数回答）

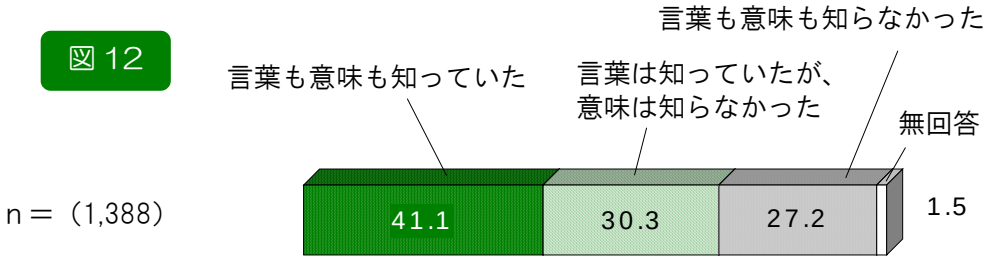


《「食育」について》

4 「食育」の認知状況

「食育」の言葉と意味の認知状況を聞いたところ、「言葉も意味も知っていた」（41.1%）が４割を超えて最も多かった。また、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」（30.3%）が３割である。一方、「言葉も意味も知らなかった」は 27.2%となっている。

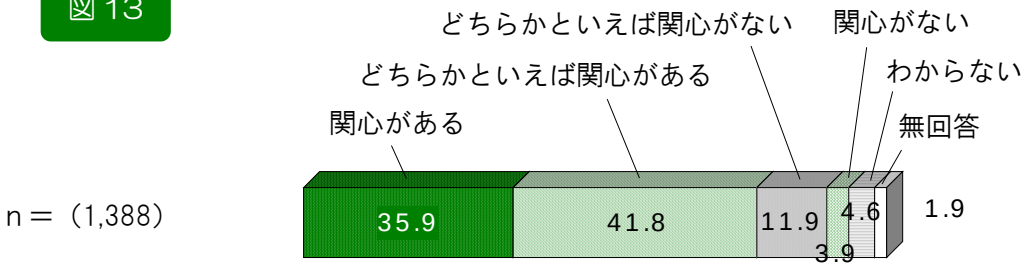
図 12



5　「食育」への関心の有無

「食育」への関心の有無を聞いたところ、「関心がある」（35.9%）と「どちらかといえば関心がある」（41.8%）を合わせると８割近い人が関心があり、「関心がない」（3.9%）、「どちらかといえば関心がない」（11.9%）を合わせても関心がない人は１割台半ばにとどまっている。

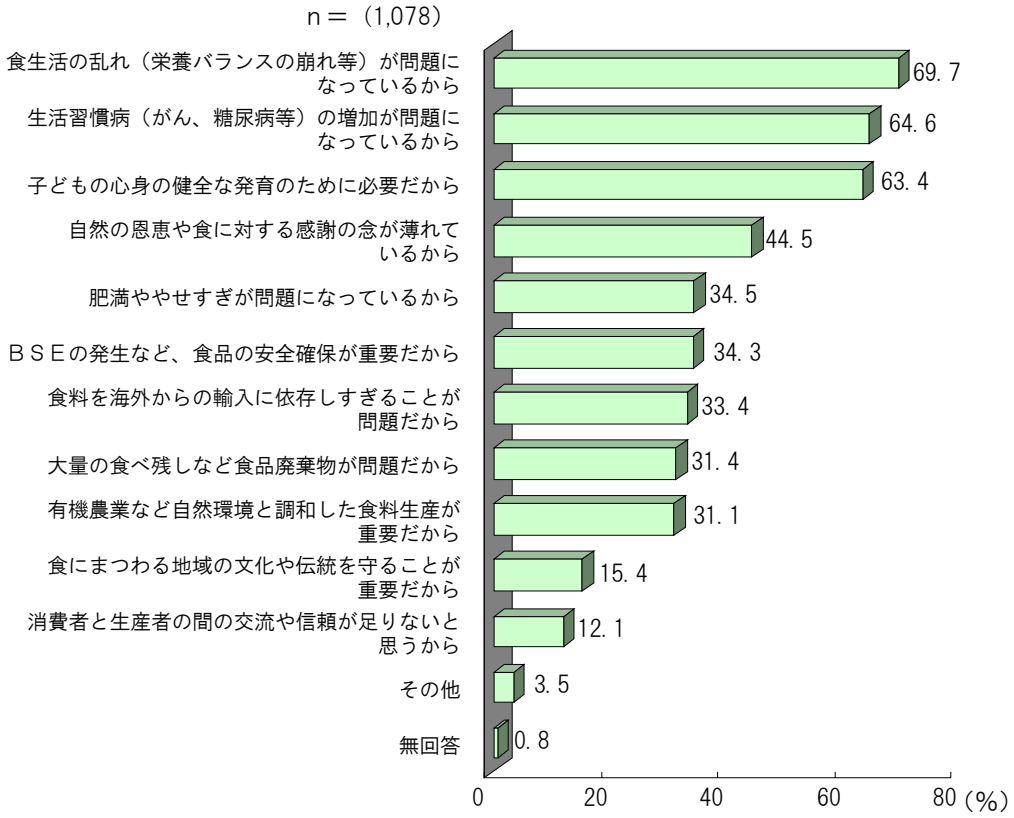
図 13



5－（1）　関心がある理由

「食育」に関心がある理由を聞いたところ、「食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから」（69.7%）が７割近くと最も多い。次いで、「生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから」（64.6%）、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」（63.4%）がそれぞれ６割を超えている。

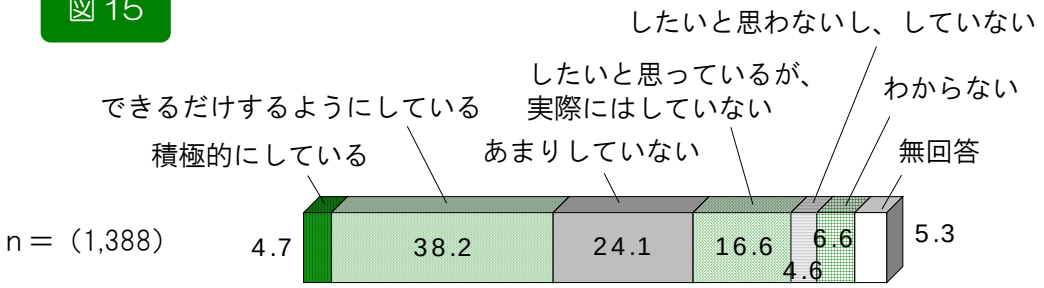
図 14　（複数回答）



6　「食育」に関する活動や行動

「食育」に関する活動や行動の状況を聞いたところ、「積極的にしている」（4.7%）は５%弱にとどまるが、「できるだけするようにしている」（38.2%）は４割に近く、最も多くなっている。一方、消極的な立場の「あまりしていない」（24.1%）は２割台半ば、「したいと思っているが、実際にはしていない」（16.6%）は１割台半ばであるが、「したいと思わないし、していない」（4.6%）は５%弱にとどまっている。

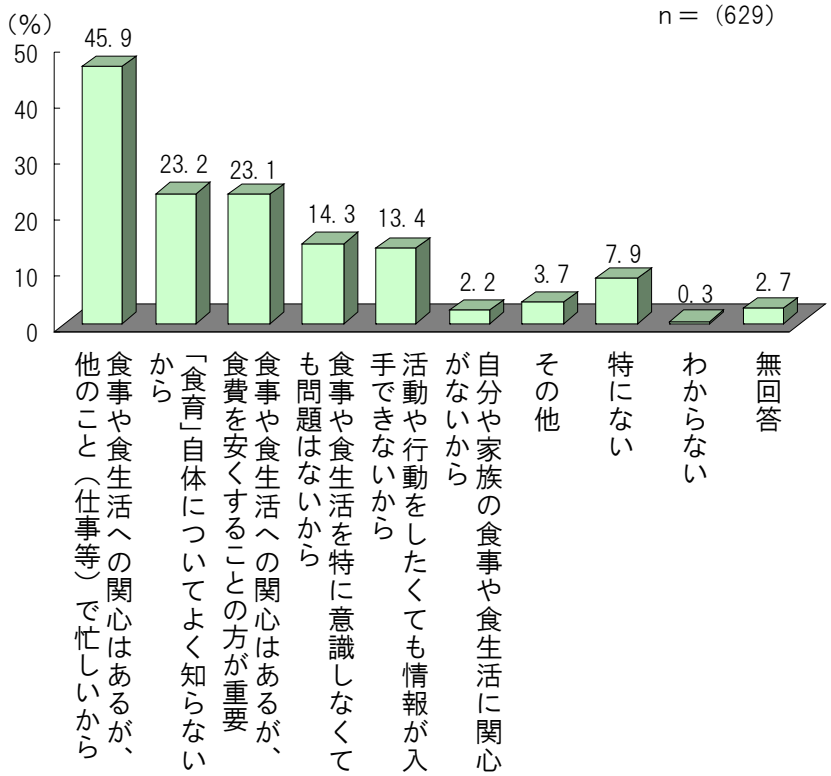
図 15



6－（1）　活動や行動をしていない理由

活動や行動をしていない理由を聞いたところ、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事等）で忙しいから」（45.9%）が４割台半ばと突出して多い。また、「「食育」自体についてよく知らないから」（23.2%）、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（23.1%）がそれぞれ２割を超えている。

図 16　（複数回答）

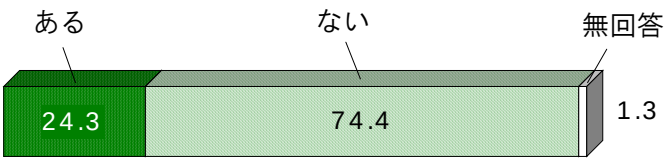


7 「食事バランスガイド」の認知状況

コマ型の「食事バランスガイド」を見たことがあるか聞いたところ、「ある」（24.3%）は２割台半ばとなっている。一方、「ない」は 74.4%である。

図 17

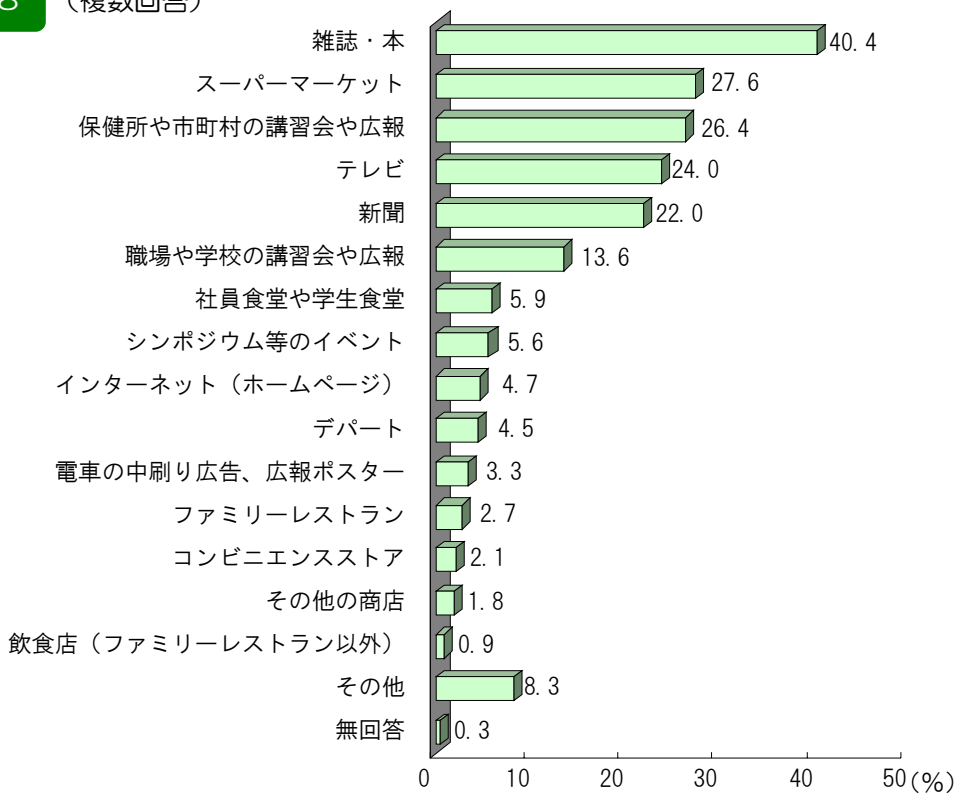
n＝（1,388）



7－（1） 「食事バランスガイド」を見た場所・媒体

「食事バランスガイド」を見た場所・媒体を聞いたところ、「雑誌・本」（40.4%）が４割と最も多い。以下、「スーパーマーケット」（27.6%）、「保健所や市町村の講習会や広報」（26.4%）、「テレビ」（24.0%）、「新聞」（22.0%）がそれぞれ２割台となっている。

図 18 （複数回答） n＝（337）

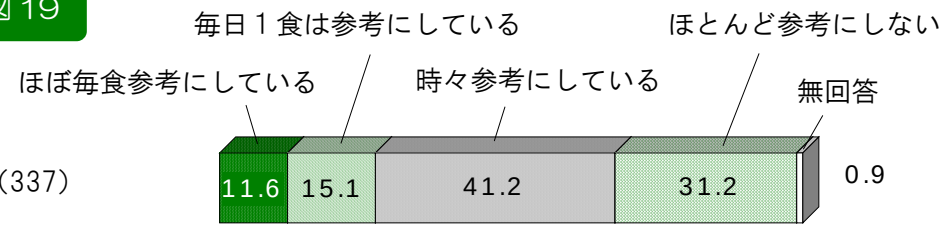


7－（2） 「食事バランスガイド」の参考状況

「食事バランスガイド」の参考状況を聞いたところ、「時々参考にしている」（41.2%）が４割を超えて最も多かった。また、「ほぼ毎食参考にしている」（11.6%）は１割、「毎日１食は参考にしている」（15.1%）は１割台半ばとなっている。一方、「ほとんど参考にしない」（31.2%）は３割を超えている。

図 19

n＝（337）



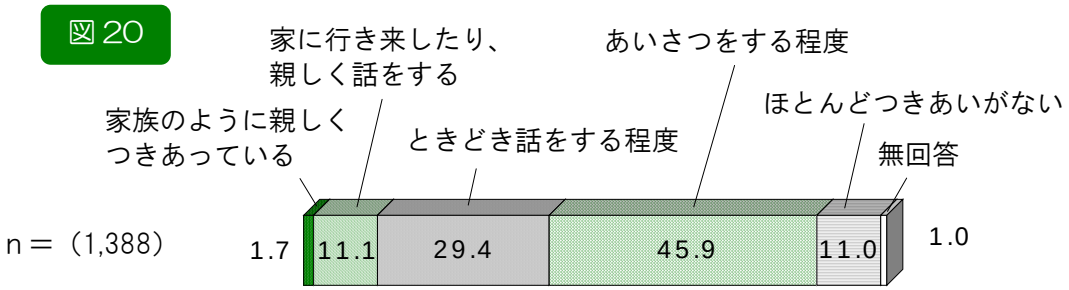
2 地域福祉について

《地域での交流や助け合いについて》

8 隣近所との付き合い

隣近所との付き合いの状況を聞いたところ、「あいさつをする程度」（45.9%）が4割台半ばと最も多い。次いで、「ときどき話をする程度」（29.4%）が3割となっている。

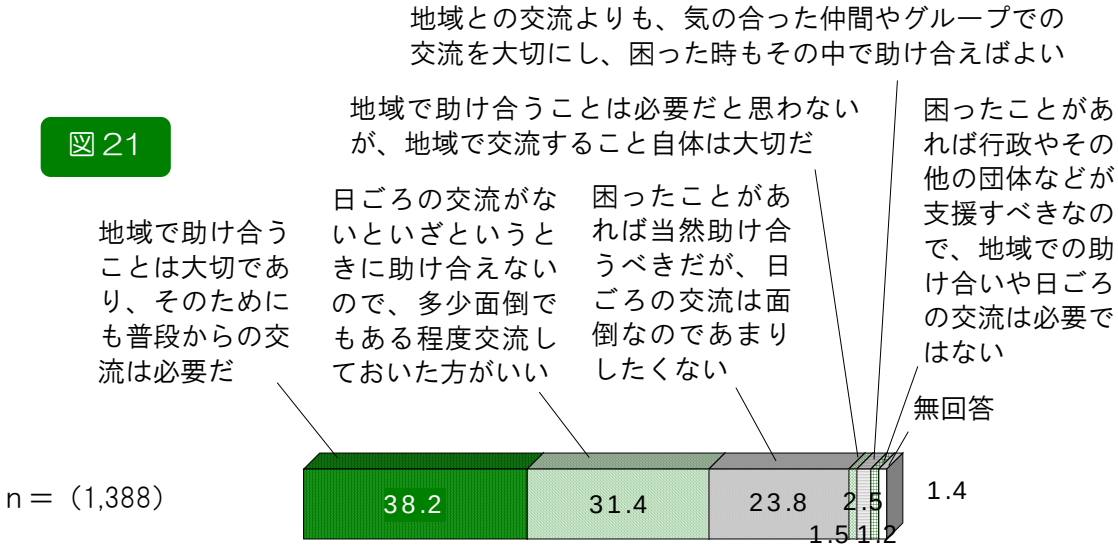
図20



9 近所付き合いや地域住民同士の交流の必要性

近所付き合いや地域住民同士の交流の必要性を聞いたところ、「地域で助け合うことは大切であり、そのためにも普段からの交流は必要だ」（38.2%）が4割近くと最も多く、次いで「日ごろの交流がないといざというときに助け合えないので、多少面倒でもある程度交流しておいた方がいい」（31.4%）が3割である。また、「困ったことがあれば当然助け合うべきだが、日ごろの交流は面倒なのであまりしたくない」（23.8%）が2割台半ばとなっている。

図21



10　隣人の手助け等の経験・してもらいたいこと

隣人の手助け等の経験を聞いたところ、「手助け等をした経験はない」（57.3%）が多数を占めている。内容については、「悩み事や心配事の相談に乗る」（16.6%）、「子どもを預かる」（13.8%）が１割台半ば、「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」（9.4%）が約１割である。

手助けをしてもらいたいことについては、「手助け等をしてもらいたいことはない」（50.5%）が半数である。内容については、「一人暮らし世帯への声かけ、安否確認」（11.4%）、「悩み事や心配事の相談に乗る」（11.1%）、「子どもを預かる」（9.5%）がそれぞれ１割前後である。

図 22　（複数回答）　n＝（1,388）　【手助け等をした経験】

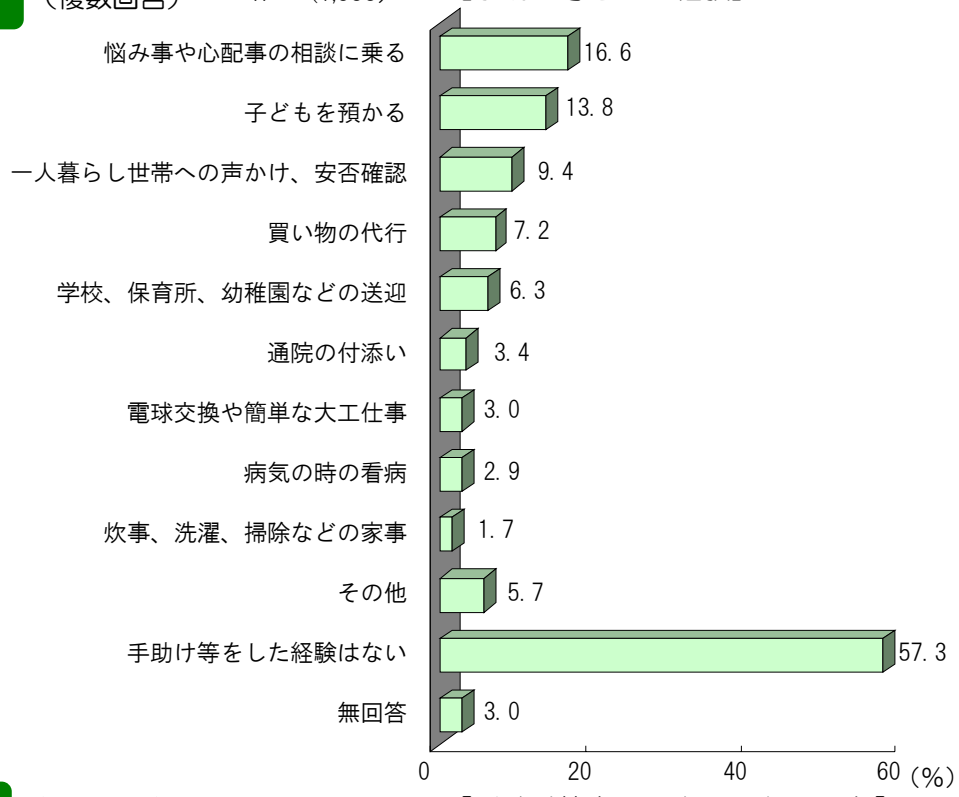
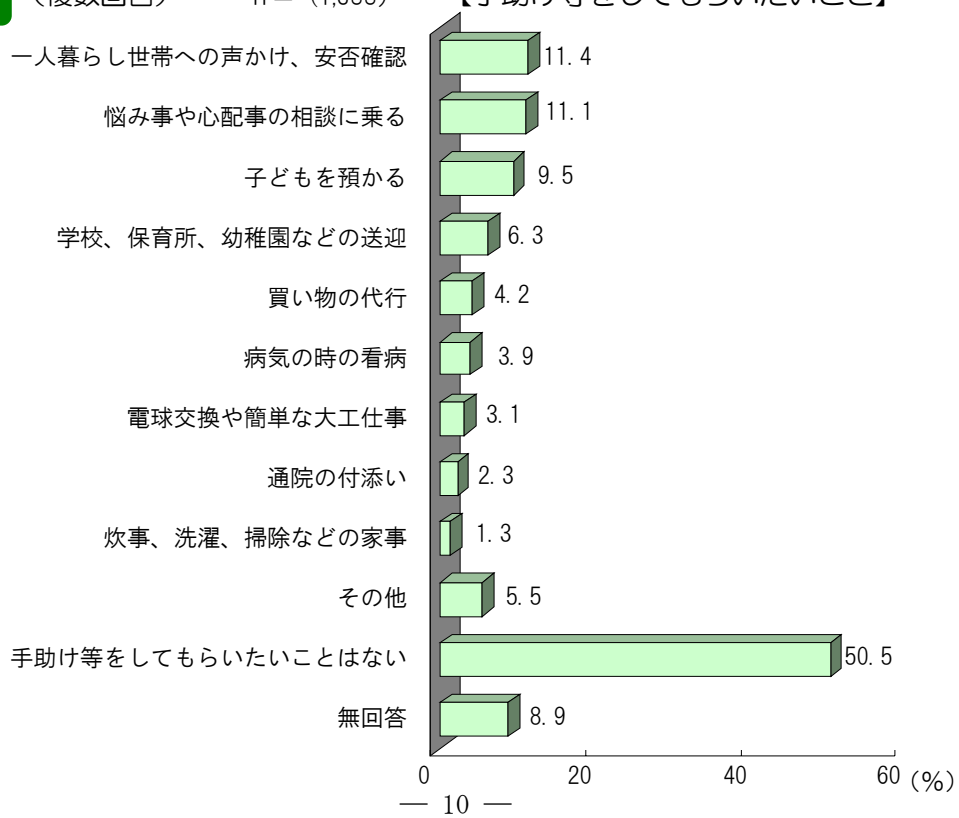


図 23　（複数回答）　n＝（1,388）　【手助け等をしてもらいたいこと】

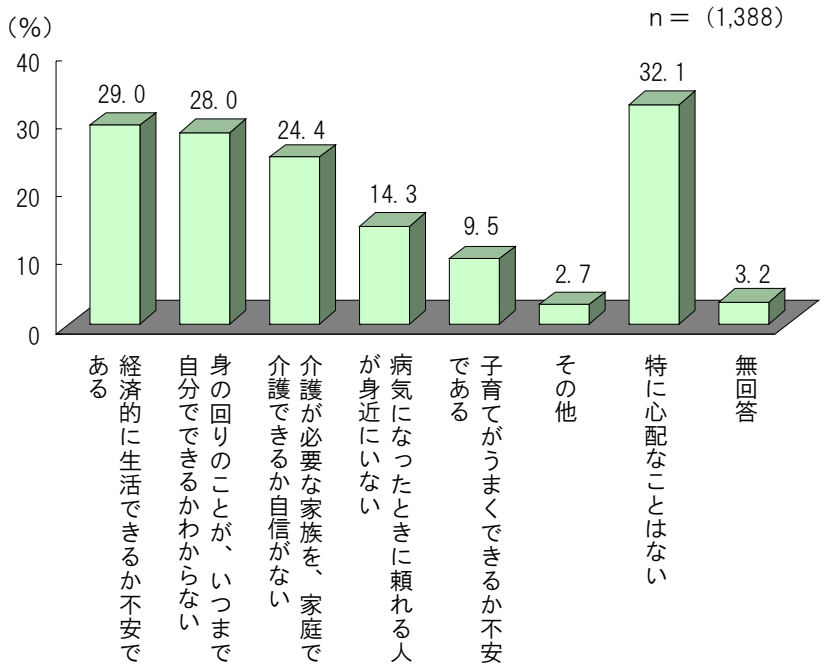


《日々の生活上の心配ごとと解決方法について》

11　家庭生活における不安

家庭生活における不安を聞いたところ、「経済的に生活できるか不安である」（29.0%）と「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」（28.0%）がそれぞれ３割に近い。次いで、「介護が必要な家族を、家庭で介護できるか自信がない」（24.4%）が２割台半ばである。また、「特に心配なことはない」（32.1%）が３割を超えている。

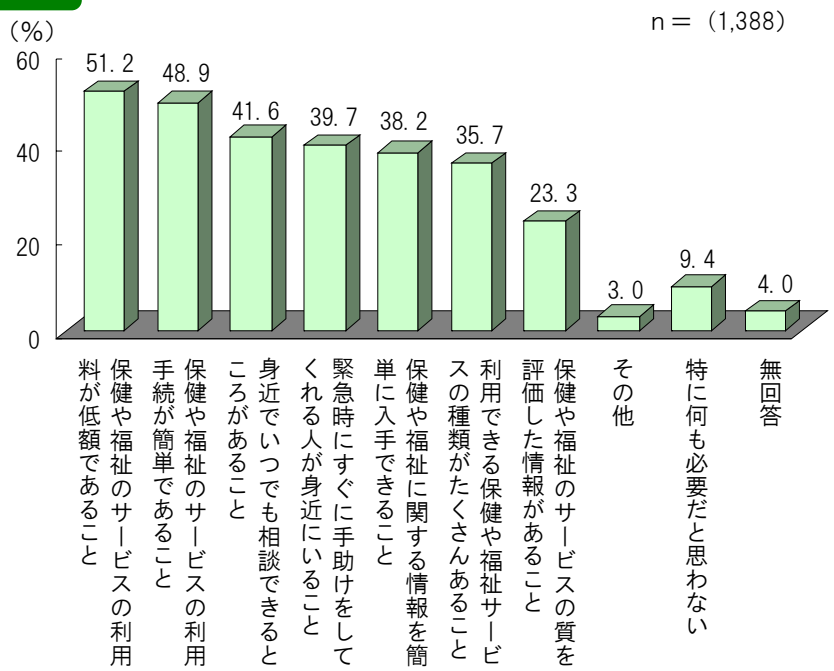
図 24　（複数回答）



12 心配ごとを解決するために必要なこと

心配ごとを解決するために必要なことを聞いたところ、「保健や福祉のサービスの利用料が低額であること」（51.2%）が半数を超えている。また、「保健や福祉のサービスの利用手続が簡単であること」（48.9%）が半数に近い。以下、「身近でいつでも相談できるところがあること」（41.6%）、「緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること」（39.7%）、「保健や福祉に関する情報を簡単に入手できること」（38.2%）がそれぞれ４割前後となっている。

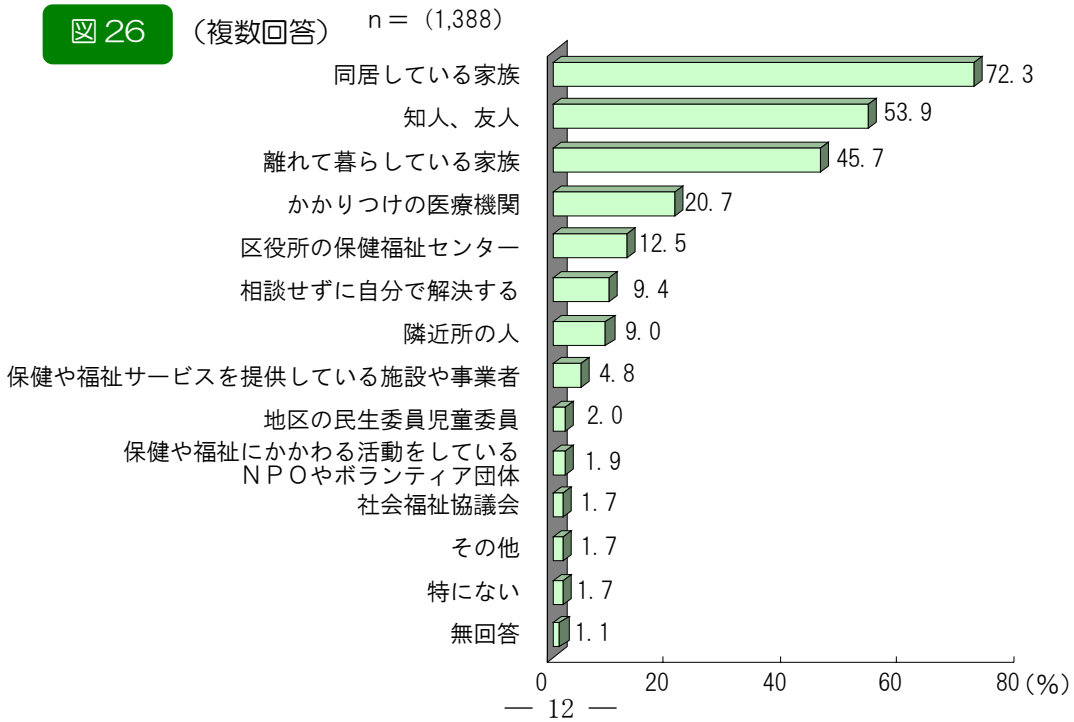
図 25 （複数回答）



13 心配なことが起きたときの相談先

心配なことが起きたときの相談先を聞いたところ、「同居している家族」（72.3%）が７割を超えて最も多い。次いで、「知人、友人」（53.9%）が半数を超え、「離れて暮らしている家族」（45.7%）が４割台半ばとなっている。

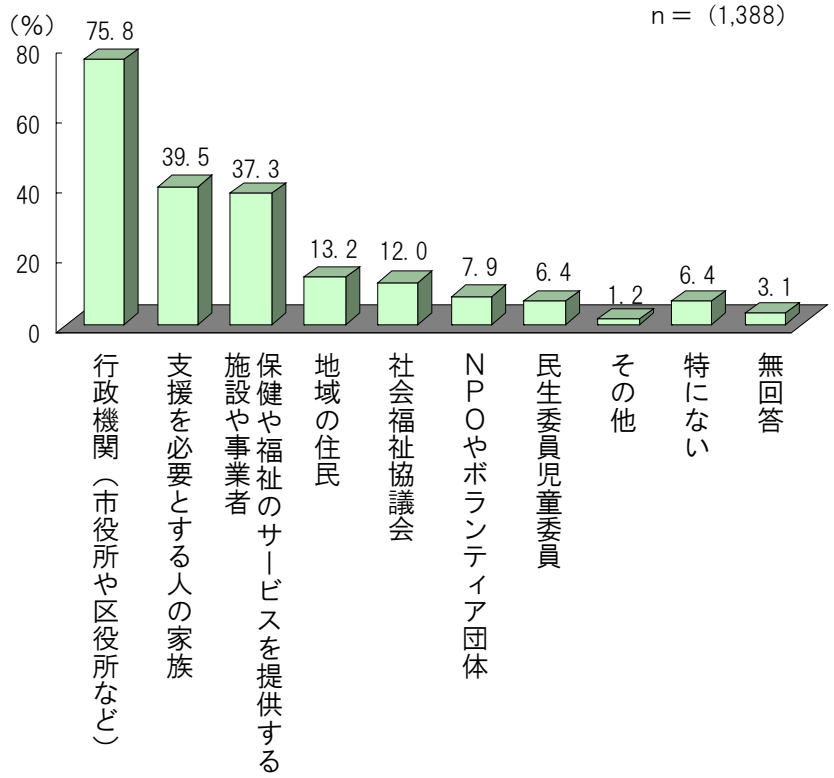
図 26 （複数回答）



14 必要な支援を行うべき担い手

必要な支援を行うべき担い手を聞いたところ、「行政機関（市役所や区役所など）」（75.8%）が７割台半ばと突出して多かった。次いで、「支援を必要とする人の家族」（39.5%）、「保健や福祉のサービスを提供する施設や事業者」（37.3%）が４割に近くなっている。

図 27 （複数回答）

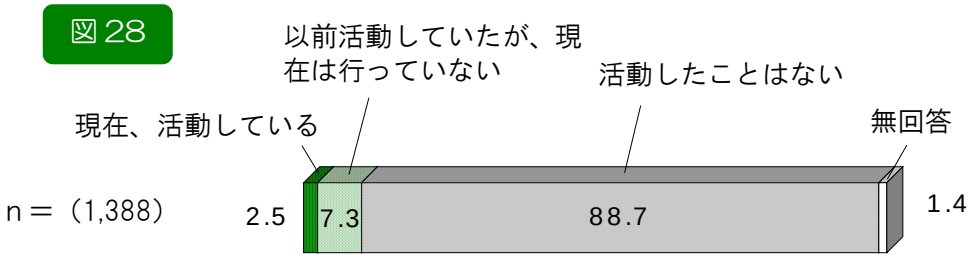


《保健福祉に関するボランティアについて》

15 保健福祉に関するボランティアの活動経験

保健福祉に関するボランティアの活動経験を聞いたところ、「現在、活動している」（2.5%）は３%未満にとどまっている。また、「以前活動していたが、現在は行っていない」（7.3%）は１割未満である。一方、「活動したことはない」（88.7%）は９割近くを占めている。

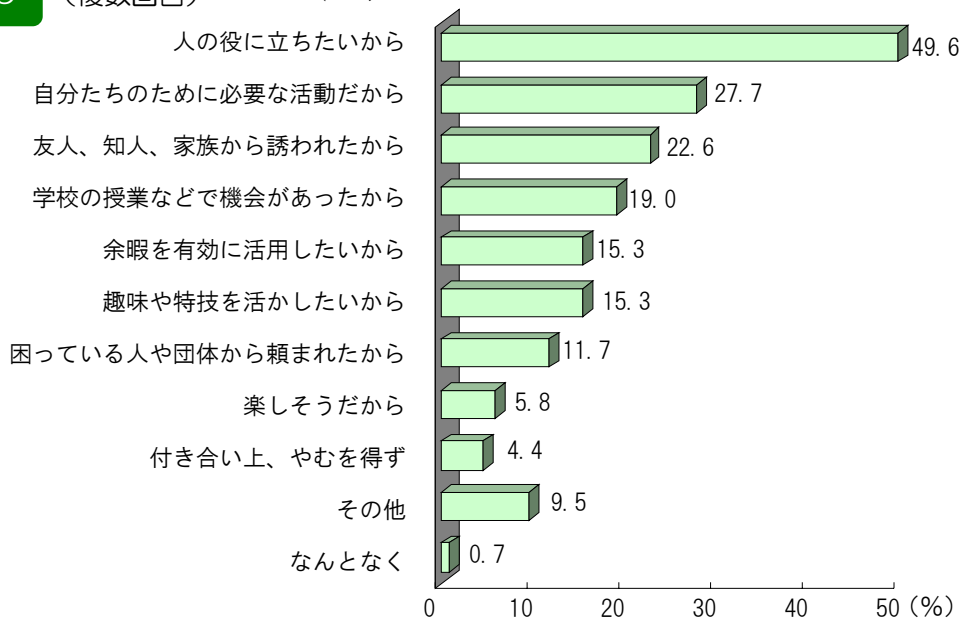
図 28



15－（1） 活動に参加した動機やきっかけ

活動に参加した動機やきっかけを聞いたところ、「人の役に立ちたいから」（49.6%）が半数近くとなっている。次いで、「自分たちのために必要な活動だから」（27.7%）が３割弱、「友人、知人、家族から誘われたから」（22.6%）、「学校の授業などで機会があったから」（19.0%）が２割前後となっている。

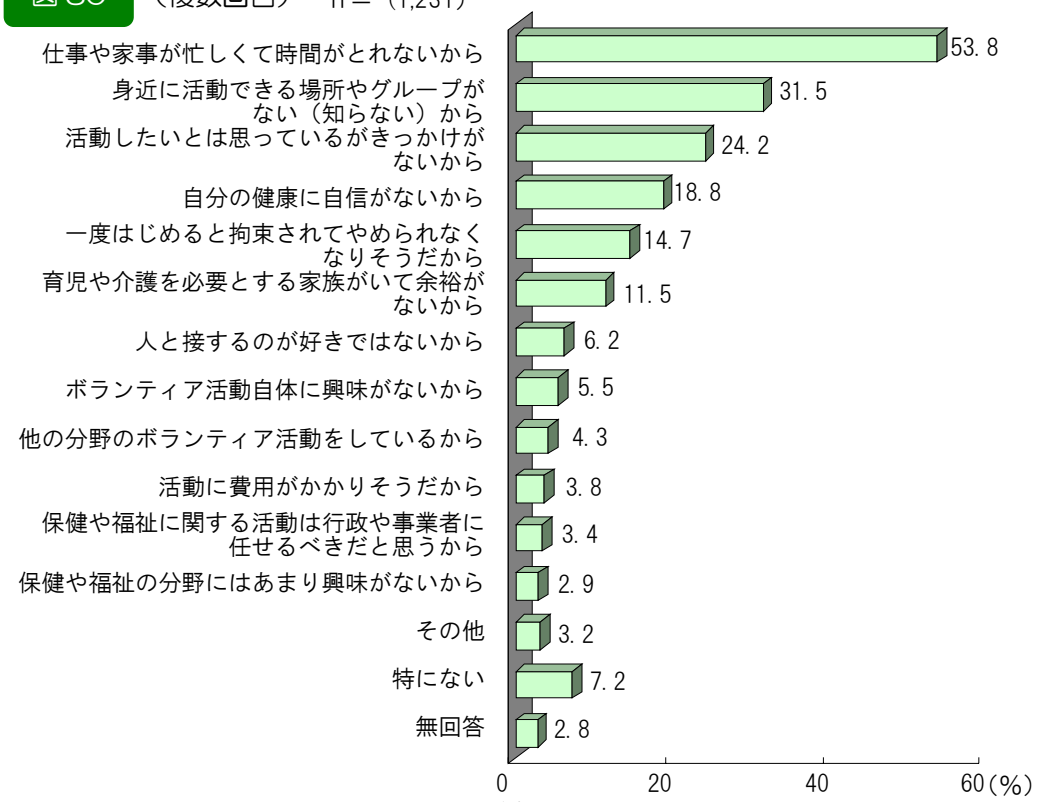
図 29 （複数回答） n＝（137）



15－（2） 活動に参加したことがない理由

活動に参加したことがない理由を聞いたところ、「仕事や家事が忙しくて時間がとれないから」（53.8%）が過半数で最も多い。次いで、「身近に活動できる場所やグループがない（知らない）から」（31.5%）が３割、「活動したいとは思っているがきっかけがないから」（24.2%）が２割台半ばとなっている。

図 30 （複数回答） n＝（1,231）



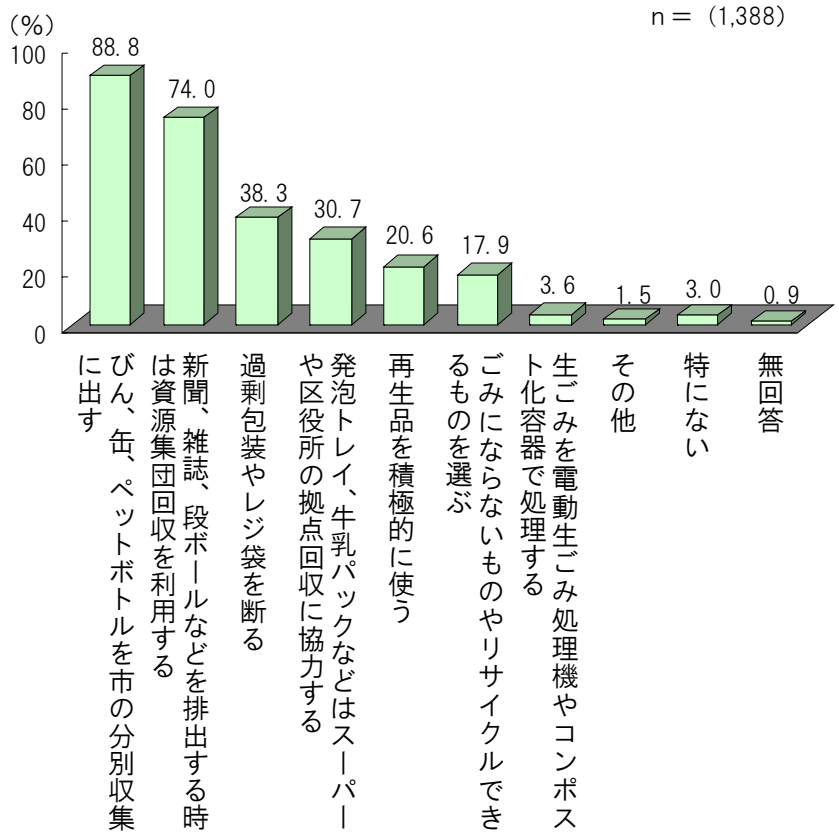
3 ゴミに関する意識について

《ごみの減量への取り組みについて》

16 ごみの減量やリサイクルについて家庭で取り組んでいること

ごみの減量やリサイクルについて家庭で取り組んでいることを聞いたところ、「びん、缶、ペットボトルを市の分別収集に出す」（88.8%）が約９割となっている。次いで「新聞、雑誌、段ボールなどを排出する時は資源集団回収を利用する」（74.0%）が７割台半ばである。以下、「過剰包装やレジ袋を断る」（38.3%）が約４割、「発泡トレイ、牛乳パックなどはスーパーや区役所の拠点回収に協力する」（30.7%）が３割となっている。

図 31 （複数回答）

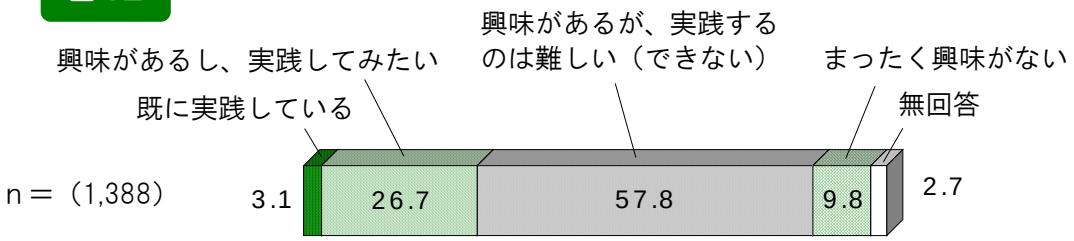


《生ゴミのリサイクルについて》

17　生ごみのリサイクルを実践することへの興味

生ごみのリサイクルを実践することへの興味を聞いたところ、「興味があるが、実践するのは難しい(できない)」(57.8%)が過半数を占めている。一方、「興味があるし、実践してみたい」(26.7%)は２割台半ばであるが、「既に実践している」（3.1%）は３%にとどまっている。

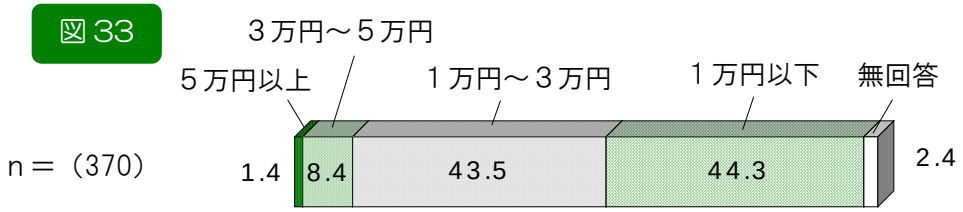
図 32



17－（1）　生ごみ処理機を購入してもよい金額

実践してみたい人に、生ごみ処理機を購入してもよい金額を聞いたところ、「１万円以下」（44.3%)、「１万円～３万円」（43.5%）がそれぞれ４割を超えている。

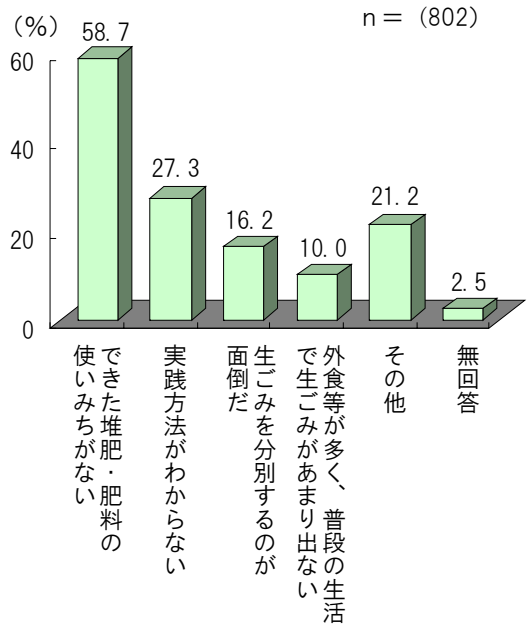
図 33



17－（2）　実践するのが難しい理由

実践するのが難しいと答えた人に、理由を聞いたところ、「できた堆肥・肥料の使いみちがない」（58.7%）が６割に近く、最も多くなっている。次いで、「実践方法がわからない」（27.3%)、「生ごみを分別するのが面倒だ」（16.2%）となっている。

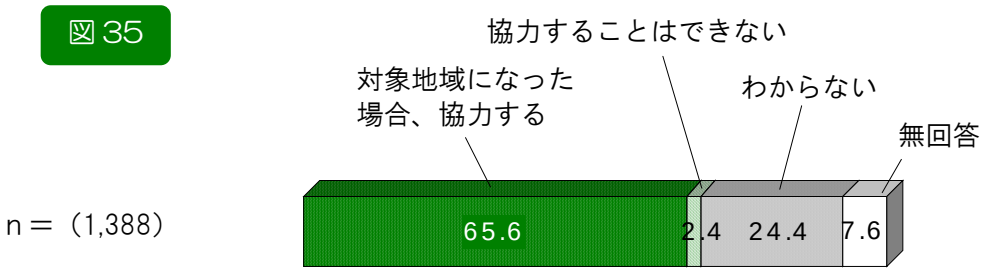
図 34　（複数回答）



18 生ごみリサイクルモデル事業への協力

生ごみリサイクルモデル事業への協力について聞いたところ、「対象地域になった場合、協力する」（65.6%）が6割台半ばと多数を占めている。一方、「協力することはできない」（2.4%）は2%程度にとどまっているが、「わからない」（24.4%）が2割台半ばとなっている。

図 35

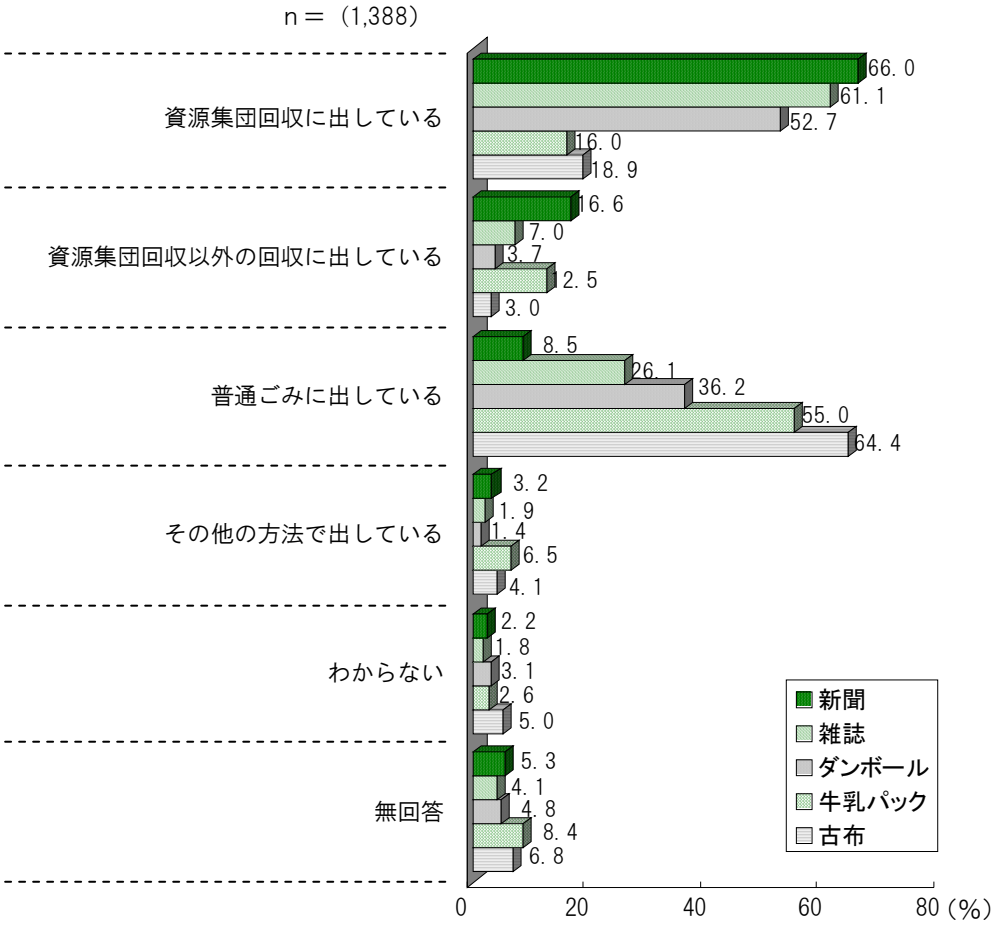


《資源集団回収について》

19 資源集団回収の実施状況

資源集団回収の実施状況を聞いたところ、≪新聞≫（66.0%）、≪雑誌≫（61.1%）、≪ダンボール≫（52.7%）は「資源集団回収に出している」が最も多い。一方、「普通ごみに出している」は、≪古布≫（64.4%）、≪牛乳パック≫（55.0%）で多い。

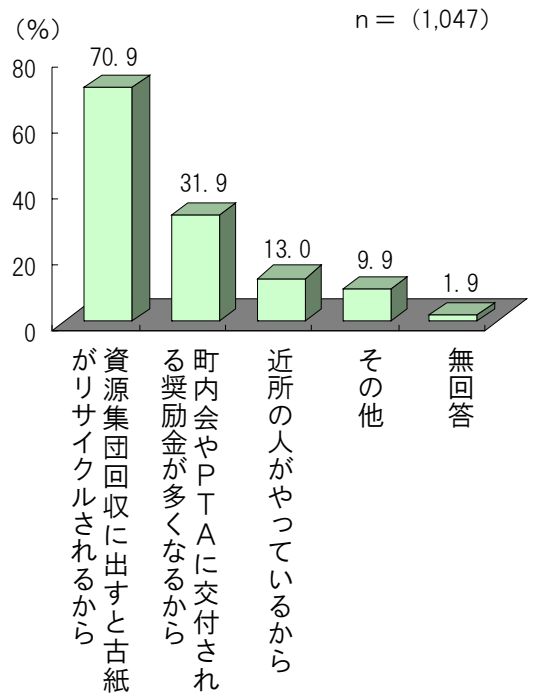
図 36 （複数回答）



19－（1） 資源集団回収に出している理由

資源集団回収に出している理由を聞いたところ、「資源集団回収に出すと古紙がリサイルされるから」（70.9%）が7割と最も多かった。次いで、「町内会やＰＴＡに交付される奨励金が多くなるから」（31.9%）が3割である。

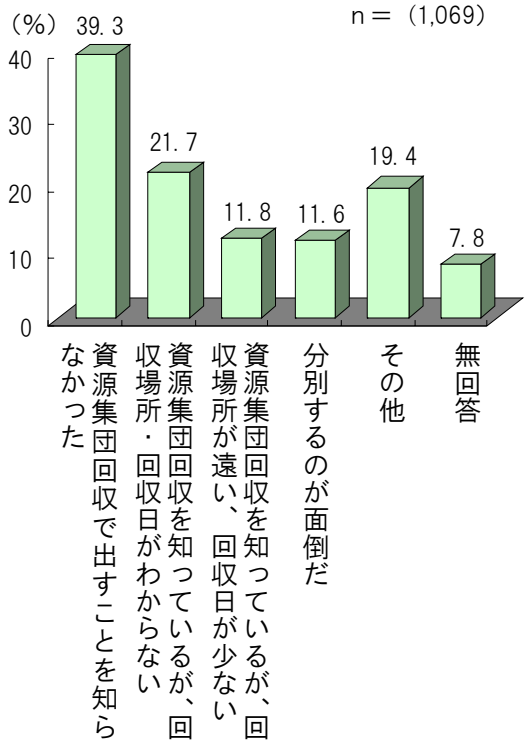
図 37 （複数回答）



19－（2） 資源集団回収を利用しない理由

資源集団回収を利用しない理由を聞いたところ、「資源集団回収で出すことを知らなかった」（39.3%）が4割に近く、最も多くなっている。次いで、「資源集団回収を知っているが、回収場所・回収日がわからない」（21.7%）が2割である。

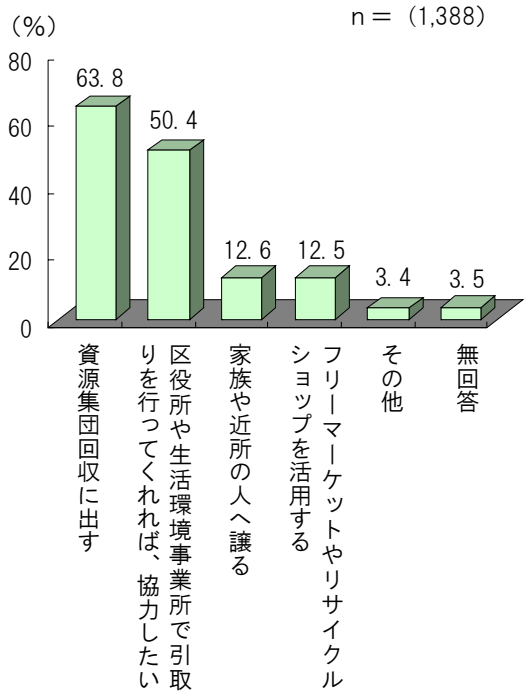
図 38 （複数回答）



20　古布のリサイクルを推進するために協力できること

古布のリサイクルを推進するために協力できることを聞いたところ、「資源集団回収に出す」（63.8%）が6割を超えて最も多く、次いで「区役所や生活環境事業所で引取りを行ってくれれば、協力したい」（50.4%）が半数を超えている。

図 39　（複数回答）

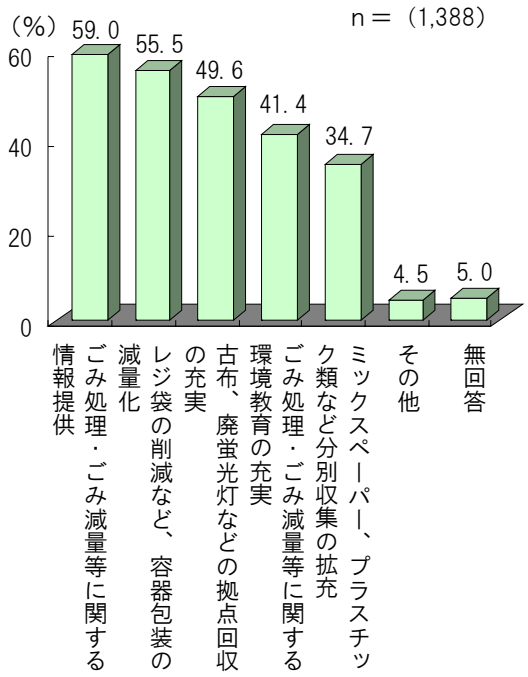


《３Ｒの施策の推進について》

21　３Ｒの施策を推進するための取り組み

３Ｒの施策を推進するために重要な取り組みを聞いたところ、「ごみ処理・ごみ減量等に関する情報提供」（59.0%）が6割に近く、最も多くなっている。次いで、「レジ袋の削減など、容器包装の減量化」（55.5%）が半数を超えている。以下、「古布、廃蛍光灯などの拠点回収の充実」（49.6%）、「ごみ処理・ごみ減量等に関する環境教育の充実」（41.4%）の順となっている。

図 40　（複数回答）

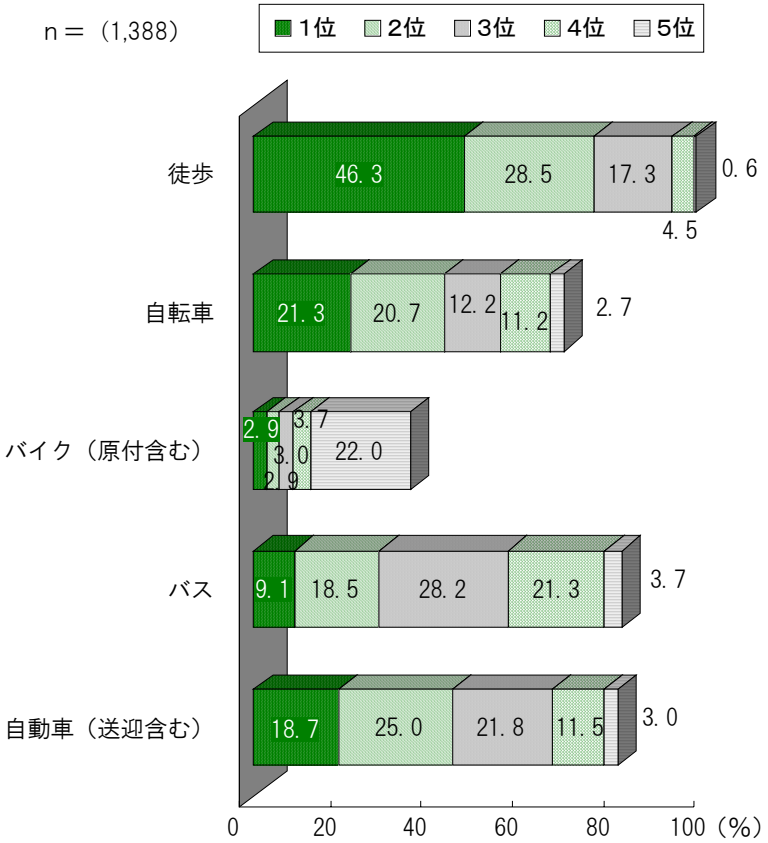


4 道路について

22 「道路利用時の交通手段」について

「道路利用時の交通手段」について聞いたところ、１位は「徒歩」（46.3%）が４割台半ばで最も多くなっている。

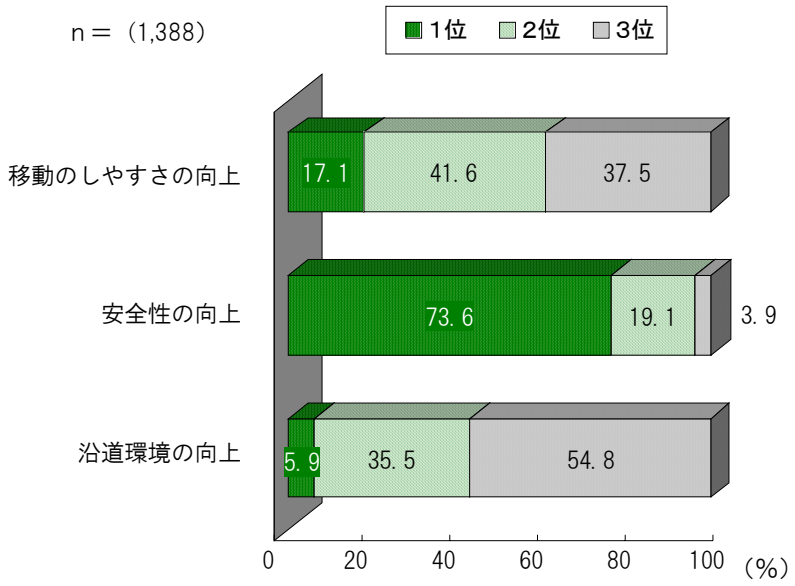
図41



23 「道路の機能（役割）の向上」について

「道路の機能（役割）の向上」のために重要度が高いものを聞いたところ、１位は「安全性の向上」（73.6%）が７割を超えて最も多い。

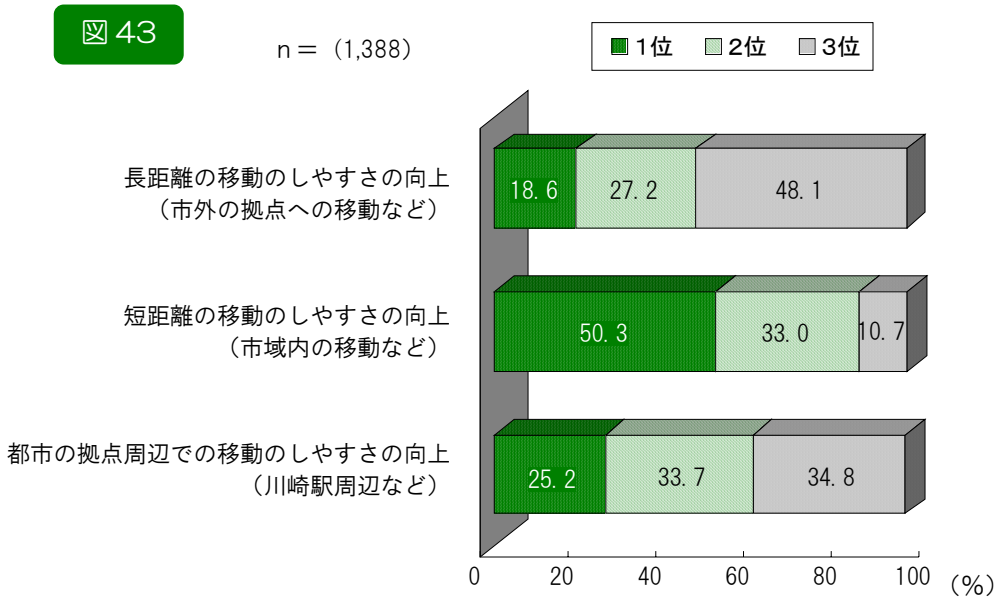
図 42



24 「ある２地点間の移動のしやすさの向上」について

「ある２地点間の移動のしやすさの向上」のために重要度が高いものを聞いたところ、１位は「短距離の移動のしやすさの向上（市域内の移動など）」（50.3%）が半数を超えている。

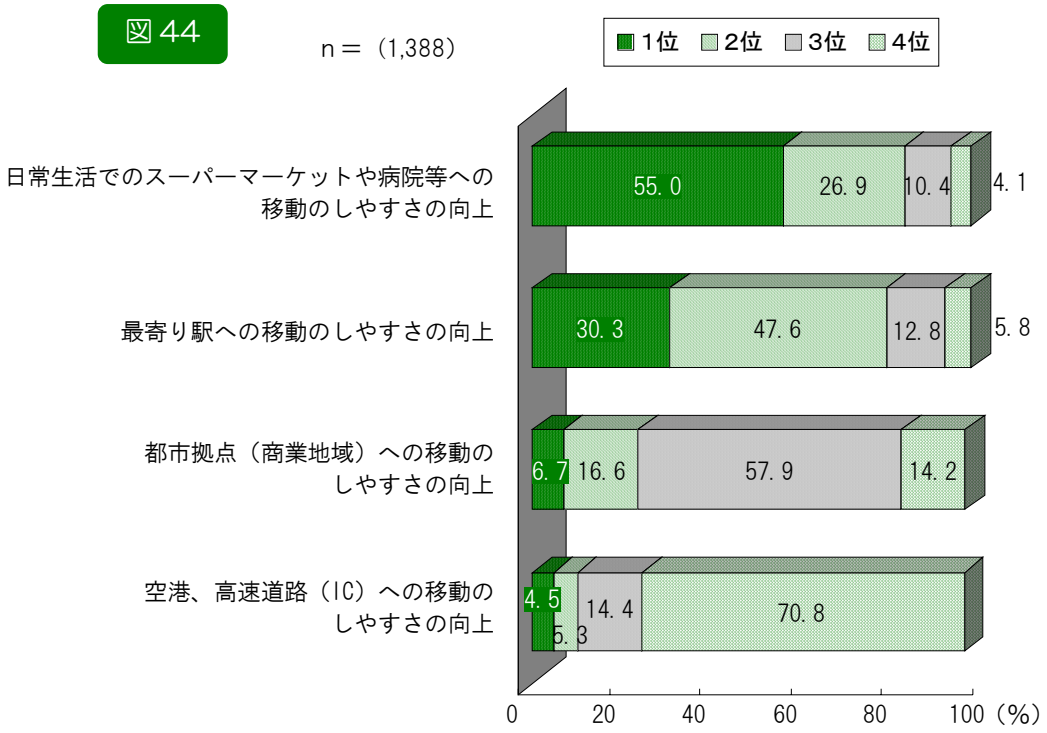
図 43



25 「ある地点への移動のしやすさの向上」について

「ある地点への移動のしやすさの向上」のために重要度が高いものを聞いたところ、１位は「日常生活でのスーパーマーケットや病院等への移動のしやすさの向上」（55.0%）が過半数で特に多くなっている。

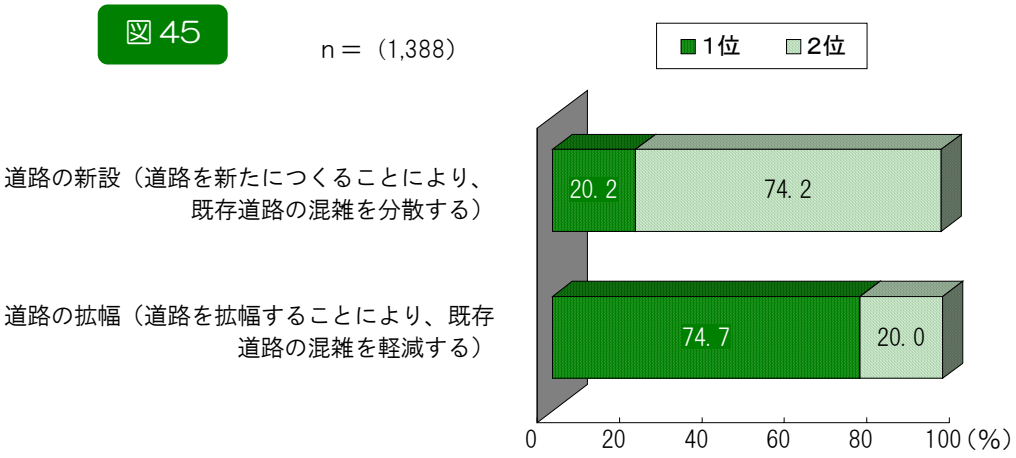
図 44



26 「道路整備の方針」について

「道路整備の方針」のために重要度が高いものを聞いたところ、１位は「道路の拡幅」（74.7%）が７割台半ばと多い。

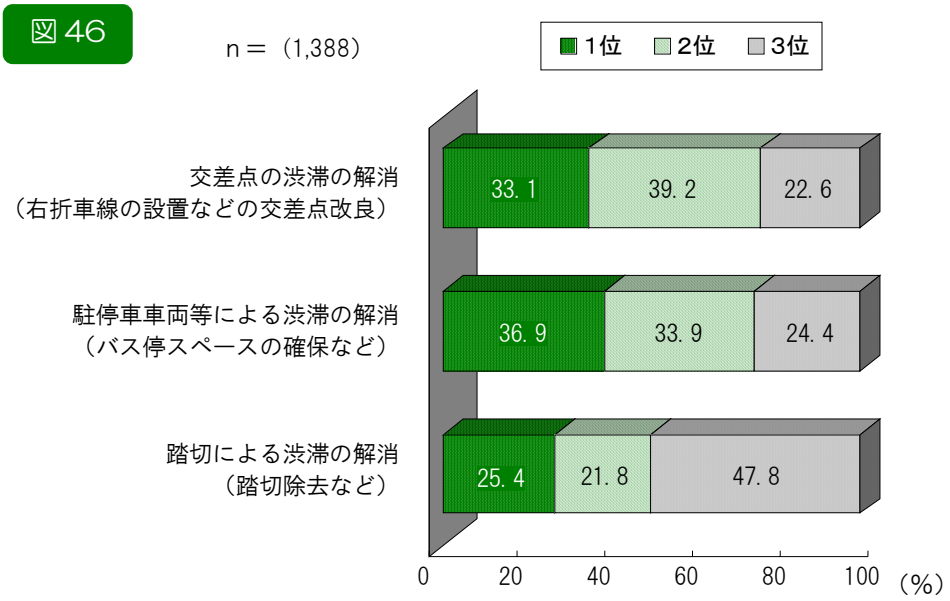
図 45



27　「道路渋滞の解消方法」について

「道路渋滞の解消方法」のために重要度が高いものを聞いたところ、１位は「駐停車車両等による渋滞の解消」（36.9%）、「交差点の渋滞の解消」（33.1%）、「踏切による渋滞の解消」（25.4%）の順に多くなっている。

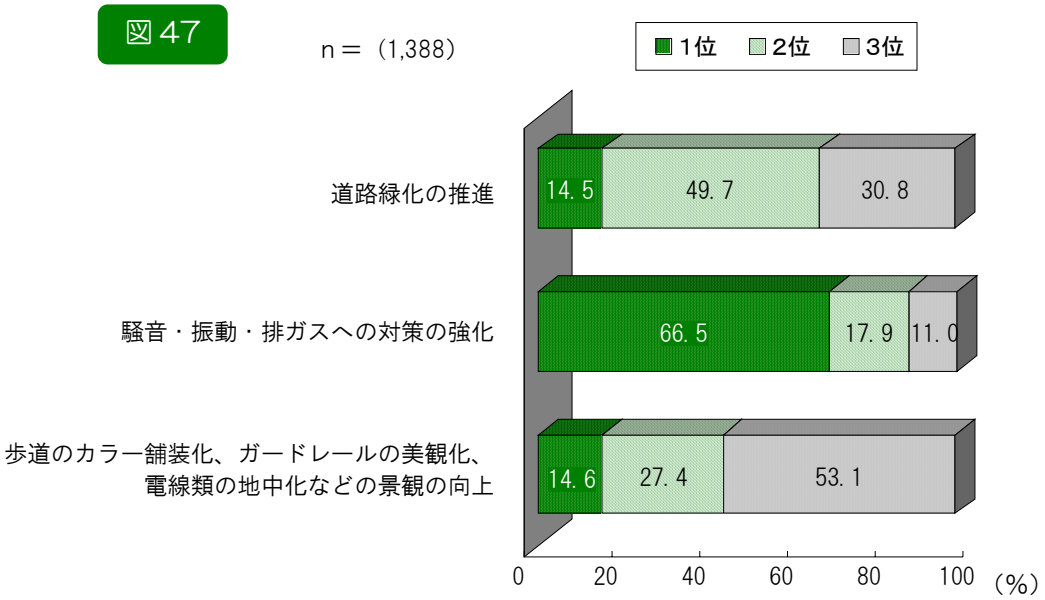
図 46



28　「沿道環境の向上」について

「沿道環境の向上」のために重要度が高いものを聞いたところ、１位は「騒音・振動・排ガスへの対策の強化」（66.5%）が過半数を占めている。

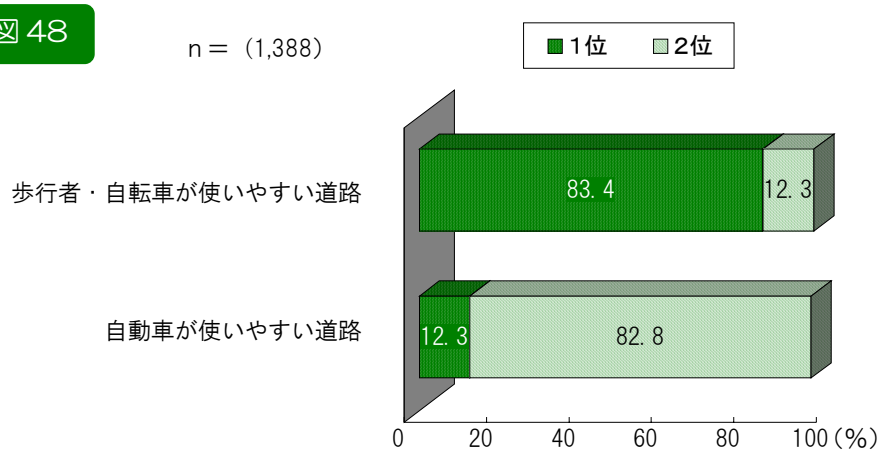
図 47



29　「道路の使いやすさ」について

「道路の使いやすさ」について重要度が高いものを聞いたところ、１位は「歩行者・自転車が使いやすい道路」（83.4%）が８割と大多数を占めている。

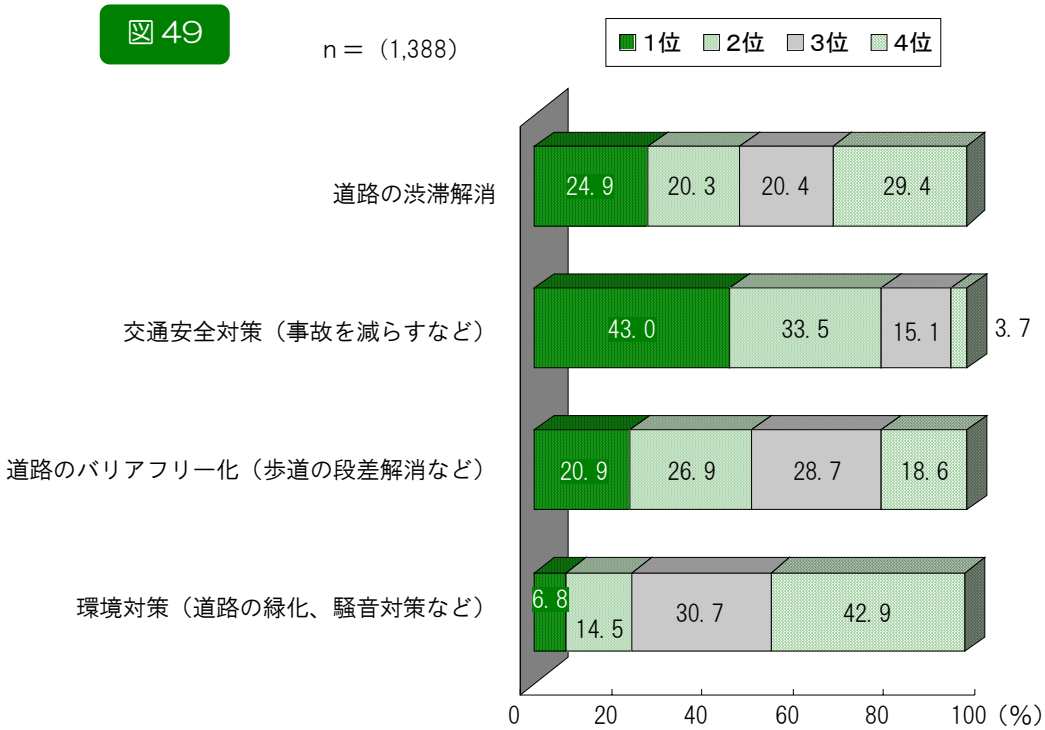
図 48



30　「道路整備の手段・方法」について

「道路整備の手段・方法」について重要度が高いものを聞いたところ、１位は「交通安全対策」（43.0%）が４割を超えて最も多い。

図 49



平成18年度第1回かわさき市民アンケート概要版

平成18年11月

発行　川崎市総務局市民情報室市民の声担当

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町１番地

電話　044-200-2292

FAX　044-200-3919